

特産品相互取扱協定 自治体紹介

本市と特産品協定を締結している自治体を紹介します。
問合先 農林水産課



④1 鳥取県境港市



▶平成30年1月19日、
中村勝治 境港市長（右）
と協定を締結

境港市の特産品



- 面積：29.10km²
- 人口：34,198人・15,206世帯（平成30年12月31日現在）
- 市の花：きく ●市の木：くろまつ

境港市は鳥取県西部、長さ約20kmの大砂州である「弓ヶ浜半島」の北端に位置し、風光明媚な白砂青松の海岸線を有しています。また日本海側の重要港湾として栄えてきたまちです。昭和29年6町村が合併して境港町が発足し、昭和31年4月より境港市として市政が施行されました。

特産品は、主にマグロ、ベニズワイガニ、アジ、サバ、イワシ、スルメイカ他、多種多様な水産物が境漁港に水揚げされており、その量は過去日本一となったこともあります。ベニズワイガニ、生の天然クロマグロの水揚げ量は、日本一で知られています。

また、弓ヶ浜半島の砂地が綿作に適していたことから、江戸時代より木綿の生産が盛んで、伯州綿は、浜綿とも呼ばれ、かつては一大産地として全国に名を馳せた境港市の特産品であり、タオルやおくるみのほか、クールビズ用ネクタイなども作られています。

境港市は、「環日本海オアシス都市」を将来像として、漁港、港湾、空港の三つの社会基盤と水産資源、「水木しげるロード」に代表される観光資源を生かし、砂漠の中のオアシスのような「安全で、安心して暮らせるまち」を目指してまちづくりを進められています。



- 面積：903.11km²
- 人口：71,807人・33,359世帯（平成30年12月31日現在）
- 市の花：ヤマザクラ ●市の木：カシ ●市の鳥：メジロ
- 市の魚：（海）アジ・（川）アユ

佐伯市は、大分県の南東部に位置し、東部は豊後水道に面しており、日本有数のリアス式海岸が広がり、日豊海岸国定公園にも指定されています。平成17年3月3日に佐伯市と南海部郡5町3村が合併して現在の佐伯市となり、九州の市町村の中で最大の面積を有しています。

農林産物では、シイタケや早期米・特別栽培米（減農薬栽培）のほか、イチゴ、ニラなどの野菜・果樹や花き、それにお茶など種類豊富です。水産業は県内の生産量の約6.5割を占めており、特にブリ類やヒラメを中心にした養殖業は、県生産量の約8割を占めます。その他アジ、サバ、クルマエビ、ヒラメ、ブリ、タイ、アワビ、サザエなどが水揚げされます。このうち青物は丸干し、開きなど水産加工品になり、イワシ類は特産の「佐伯イリコ」として珍重されています。

また、食のまちとして、郷土料理「ごまだしうどん」や生鮮魚介類を素材とした「佐伯寿司」で知られています。

佐伯市は、「さいき創生」を担う人材の育成を最重要課題として「佐伯人」の育成に取り組み、『地域が輝く「佐伯がいちばん」の人・まちづくり』を目指しています。



④2 大分県佐伯市



▶平成30年2月2日、
田中利明 佐伯市長（左）
と協定を締結

佐伯市の特産品

